

学問は学生の生きる力

— 学習意欲を取り戻した学生と、その後輩への影響 —

Studying as Students' Main Source of Vitality

— A Report of a Student who Recovered Eagerness to
Study and Her Influences on Her Juniors —

満田 タツ江

Tatsue Mitsuda

キーワード：模擬授業 生きる力 入学時オリエンテーション

はじめに

教育職員免許法の一部改正（1998.6）及び、養成教育のカリキュラム一部改正（2000.4）は、養護教諭に、より教育職員としての資質の向上と力量形成を要請されることとなった。

これを受けて各養成機関では、教育内容の充実と指導法等、よりよい養成教育めざして努力している所である。

さらに2002年4月から新学習指導要領が開始され、本学でも従来の保健指導に加えて兼務発令による保健学習を行う上で「生きる力」を育む学習指導を通して、学生にやる気を起こさせるための効果的な指導法について模索する所である。

「生きる力」とは、①自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、②自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や生命や人権を尊重する心、感動する心など、豊かな人間性、③たくましく生きるための健康や体力等が重要な要素としてあげられる。（中央教育審議会第一次答申 1996.7）

「生きる力」を育む学習指導を行うには、指導者となる学生が自ら課題を見つけ、行動を起こし問題を解決するなどの主体的な学習体験をし、その体験から得られたものが「生きる力」を育む学習指導を行う上での原動力になると考える。

従って、「教育方法の研究」で、協調性やコミュニケーション能力の育成も含めて、保健教育にグループ学習を取り入れ、模擬授業を行った。

例年、この授業は、教材作りに趣向を凝らす等学生の関心が高い一方、アルバイト等の理由でグループ活動が充分になされないと言う難点があった。

そこで、グループ活動に参加しなかった学生の指導として、入学時オリエンテーションを学生に計画・実施させ、次の学年への準備を試みた。その結果、次の学年のグループ活動が盛んになり、

達成感が得られ仲間意識や養護教諭をめざす気持ちが一層強くなった。さらに専攻の活性化につながる成果も得られたので報告する。

研究方法

(1) 学習指導の経過 (2002年前期)

2001年後期の「教育方法の研究」でグループ学習に参加しなかった学生 (以後K学生とする) に単位取得のチャンスとして「入学時オリエンテーション」の課題を与えた。

彼女は、第3希望で本専攻に入学し、最初からやる気を失い、アルバイト浸りの日々を送っていた学生である。

最初は躊躇していたが、クラスの仲間が3人手伝いを申し出たため、仲間に助けられて春休み中で90分の指導案と、教材を作り上げた。

当日、クラスの協力を受けながら、1, 2年生全員と教職員を前に題材は「生活科学専攻について」の授業を実施。

SGE (構成的グループエンカウンター) で導入し、教職員の紹介で盛りあげて、展開では、専攻の特徴や、単位取得での大事なことを押えていった。山場では、涙で声を詰まらせながら、今回自分がこの授業を行うにいたった経緯 (自己開示) を説明。完全に1年生の心をとらえてしまった。「すごい、1年間であんなになれるんだ。」と、いうのは、直後1年生から聞いた言葉であるが、ほとんど全員が釘付けになり、特に1年生の脳裏に強烈な印象を残した。

(2) 「教育方法の研究」の展開 (2002年 後期 1年)

次の①, ②に従って実施した。

① グループ活動について

イ. 6コマの座学終了後、グループ分けを行う。その際、題材の選択は次の保健学習及び、保健指導の中から自分の取り組みたいものを選ぶ。

保健学習：小学校「新しい保健」(3・4年用, 5・6年用) 及び、中学校「保健体育」の教科書の各単元から

保健指導：性教育, エイズ教育, 薬物乱用防止教育 (飲酒, 喫煙を含む), 感染予防, 生活習慣病の予防 (う歯, 近視の予防を含む)

ロ. グループの構成は、教材によって調整し、4~5人1組とする。活動時間、場所、教材研究など、グループで十分検討し、学習指導案の点検指導を受けた後、教材づくりに参加する。アンケート結果などで詳しく扱えない部分は「保健だより」として発行する。

② 模擬授業について

イ. 40分~50分の授業をグループ内で分担して行い、できるだけ、教育機器を使う。

ロ. フロアーは、児童・生徒であり、評価者である。評価表は、最後に被評価者に渡し、養護実習の時に評価授業を行うときの参考にする。

ハ. 自分を振り返るために毎授業ビデオにおさめ、授業終了後には、毎回授業研究 (全体討

議)を行う。

結果及び考察

(1) グループ活動について

とりかかりが遅かったが、一たん動き出すと学内の施設にとどまらず、県立図書館や他大学まで活動(教材研究)の場を広げていった。期間中学生ホールや実習室では、放課後遅くまでグループ討議の声が聞こえていた。中にはグループ内での人間関係の摩擦もおきていたが、それらの解決もすべて、グループ内で行うという問題解決学習を含んだ体験学習である。

実際の模擬授業は、手洗いにメトロノームが出てきたり、カップラーメンの容器を利用して眼球が現れたり、「正しい姿勢」では、低学年に「とび出す絵本」を作ったりとアイデア豊富であった。そしてひそかにグループ感の競争意識も感じられ良い意味で切磋琢磨していた。

特に今回の1年生に効果をもたらせたのは、入学時オリエンテーションでのK学生の授業であったと思う。その時の1年生の感想は、次の4点に集中していた。

表1 オリエンテーションの授業を受けて(1年生の感想)

- | |
|--|
| <p>①先輩の楽しい授業で、オリエンテーション後は、入学時の緊張がほぐれていた。</p> <p>②養護教諭は、保健室に居てけがの手当てや相談にのるだけだと思っていたが、先輩の明るく楽しい授業で驚きと同時に感動だった「自分にできるだろうか」というより、「やってみよう」という気持ちが強くなった。</p> <p>③堂々と授業する先輩の姿に惹かれてしまいました。</p> <p>④自分の失敗をみんなの前で話せる先輩は、すごいと思った。後輩に同じ失敗をさせたくないという気持ちが伝わった。</p> |
|--|

誰もが不安な入学時の先輩の笑顔は、ホッとするものを感じると同時に、格好の良さにあこがれる若者の心理をうまくつかんだものかもしれない。

以上の学習体験で、養護教諭の職務のイメージがさらに広がり、いっそう養護教諭への希望が強くなった。学生生活としては、中だるみの時期で、例年なら、厳しい現実を知って、あきらめ傾向が強くなってくるが、この学年には、初期の目標を思い出させる良い刺激となった。

(2) 学習指導案の検討～模擬授業(1年生)

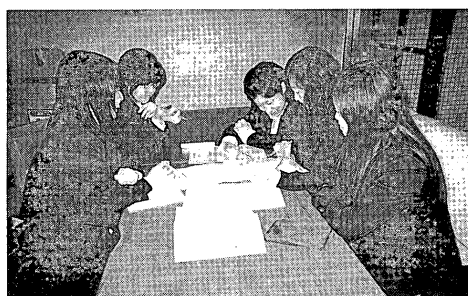


写真1 学習指導案の作成



写真2 教材作り



写真3 模擬授業「目を大切にしよう」

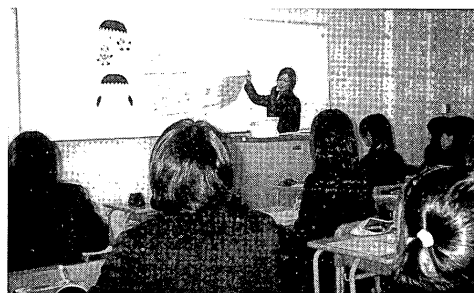


写真4 模擬授業「むし歯と歯周病」

表2

模擬授業評価表

被評価者 ()

項 目	評 価
1. 授業について	
① 対象学年に理解できる内容か	
② 児童参加型になっていたか	
③ 指導案にそっていたか	
④ 時間配分と実際の流れは？	
⑤ 教材が工夫されていたか	
2. 教師について	
① 言葉、表現が適切か	
② 声の大きさ及び速さ	
③ 動き、巡視の仕方	
④ 板書の仕方、チョークの使い方	
⑤ 指名や発問の仕方	
3. その他、良かったところや気になった所	

(3) 模擬授業を終えて (1年生の感想)

- ①学習指導案の作成は、思った以上に難しく、思うことが言葉にできず冬休みも休みじゃない位、いつも考えては、内容を少しでも良くしたくて悩んでいました。でも、その甲斐あって、模擬授業が終わった時の“やったあ〜”という気持ちは、今までに味わったことがない位、充実して、とってもすっきりした気分になりました。
- ②学習指導案は、まず個人で書いてきて、それを見せ合っているのを活用して1つのものを作成する形にしたけど、やっぱり頼ってしまう点がありました。でも、自分だけでは考えつかない意見も聞けたし、考え方が広がると思いました。1つのことをみんなでやり遂げられるうれしさをすごく感じることができました。
- ③グループのみんなと休みの日に集まって話し合ったり、教材を作ったり協力したので最初の

授業にもかかわらず、とことん自分たちでやったことが良かったと思います。自分たちなりに精一杯できました。

- ④グループ1人1人の意見がぶつかることが多かった。グループということで他人に甘えていた部分もあった。でも、模擬授業を終えた時、5人で一つの喜びを味わえたと思う。バイトは休んで、グループ活動はすべて参加して自分のものだと思って勉強した。自分は「この仕事がしたい」と本当に思った。

みんなの反応があったりすると楽しくなり、担当時間の10分があっという間に過ぎた。

- ⑤グループでやるのは初めみんな遠慮しあってなかなか意見が出てこなかったが、一たん意見が出はじめるとたくさん出てそれをまとめたり、選んだりするのが難しかった。けれどもいろいろな考え方が聞けたりして面白かったし、準備を手分けして出来たしみんなで1つのことをやり遂げたという達成感と仲間意識を持つことができたのは良かったと思う。行きづまった時に仲間がいるという事はとても心強くて良かったと思いました。

- ⑥グループのみんなが積極的に行動していた。ただ、いつも一緒にいる人以外の人ともグループになってやりにくい面も出てきたと感じた人がいるかもしれない。その時リーダーであったにもかかわらず、うまくまとめられなかったのを反省している。でも、私、個人的には、短大では、ほとんど個人行動が多く、なかなか仲良し以外の人とグループになって共に活動する機会がないし、だから、そういう意味では、対人関係の勉強になった。「こういう人もいるんだ」って。

- ⑦今まで自分が授業を受けてきた中でも、一番良く聴いて参加していたと思うのは、新任の先生の授業で、前もって良く準備してきていたことがわかった授業だった。ノートに板書計画をまとめてきていたり、みんなからの質問に答えようと一生懸命頑張っていた。教師の頑張りは子どもに伝わり、教師の頑張る姿に触れて子どもも頑張ろうと思うのだと思った。

- ⑧教師が授業をするのは、こんなに大変なんだと思いました。前に立つと、子どもに見られているような気がして頭が真っ白になりました。でも、子どもの発表や反応には助けられました。反応がないと不安になり、反応があったら、ホッとしてみんなで笑顔で返せました。

教材をたくさん作るのもいいけれど、子どもが理解できる面白いと思ってくれる話し方、授業の進め方が大切だと思いました。子どもが授業に集中してくれることが何よりうれしいことで、教師は教えるのではなく、子どもに教わるものだと思います。

- ⑨模擬授業が終わってから養護教諭になりたいという気持ちが自分でもビックリする位強くなった。実習に行ったらもっともっと楽しい授業をしたい。子供達にたくさんかわりを持ちたいと思う。

- ⑩私は、前期も後期も遅刻、欠席が多くて、教務課や先生に呼び出されて自分がヤバイことを知りました。

でも模擬授業は、我ながら良く頑張ったなあと思います。グループ全員で協力してとてもよい経験になりました。何の気なしに入学したんだけど、今は養護教諭になりたいという気持ちがふつふつと沸きあがってきたので、来年度はもっともっと努力して、遅刻、欠席なしで

いこうかと思えます。頑張ります。

(4) K学生の養護実習

この経験が、K学生の自信とやる気を起こさせ2年時は、まるで別人のように学業に専念しはじめた。特に養護実習での評価授業への取り組みは、次の児童の感想と指導教諭（学級担任）の評価にみるとおりである。

表3 児童の感想（5年生）

さっきの授業、とっても楽しかったです。今まで知らなかったことやブラッシングの仕方など、くわしく、そして、わかりやすく教えてくださいましてありがとうございました。いつもは「めんどくさい」と思っていたけれど今日の授業をしてから「しっかりみがこう」と思いました。今日は、いろいろありがとうございました。

表4 指導教諭から

さて授業ですが、導入時はK先生の笑顔で子供達は安心して、能動的に取り組んでいました。ちょっとしたことかもしれませんが、子供達は先生の表情や気持ちを敏感に感じ取りますので、笑顔で始めたのは良い姿勢だったと思います。授業の流れはよかったと思います。子どもの意欲や集中力が継続できるような工夫された活動でした。発表が少なくて困られたと思いますが、うまく引き出されたと思います。子どもは、そのようにして少しずつ自信を持っていきます。特に最後に感想を発表したM君は、普段はよく発表する子ではありません。その場で発表できたのは、充実した授業内容と先生の授業に対する姿勢が一生懸命だったからだと思います。

写真5 評価授業

「むし菌とはみがきについて知ろう」



結 論

次の3点から学生は「学ぶ」ことを通して生きる力を得た。

- (1) 1年間の成長モデルとして、入学時オリエンテーションを学生が行ったことで、1年生の感性を刺激し、授業者は、それを手応えとして感じ、両者が学ぶ意欲を高めるという一石二鳥の効果を得た。

- (2) グループで主体的に取り組むことで自ら知識を獲得し、討議を重ねて、深め、広め、発展させることを学び、やり遂げる喜びを知った。その経験が達成感を得、自信となり、やる気を起こして、次への意欲を駆り立てた。
- (3) グループ活動は、人と人のぶつかり合いの中で行われる。自らを律しつつ他人とともに協調し会える人間関係の学習にも効果的であった。

おわりに

「よかったね。アルバイトがあって」その一言に緊張していた表情が、戸惑いに変わり、やがて目が潤んできた。

模擬授業に参加しなかったK学生との面接場面である。その後の変化は既述の通りで何も言う必要はなかった。

これは、カウンセリングマインドによる学生への対応であるが、普段は、どちらかという学習指導の面で活用している。勉強は「強いられて」するものという「思い込み」から早く開放し「自らの学習意欲」を取戻してほしいという考えるからだ。

本ケースは、このように、2年生の学生指導を1年生の学習指導に生かし、両者の効果をねらったのである。

今時の学生はということをよく耳にするが、今も昔も基本的な学問の仕方に変わりはないと思った。

学生（K学生、1年生）は今回の経験で、勉強（保健教育）の内容を知ったのではなく、勉強の方法と自分で学ぶ喜びを知ったのだと思う。

授業終了後に1年生の中から「次年度の入学時オリエンテーションを自分がしたい」という希望が出てきた。先輩から受け継がれた良いものは後輩に引き継ぎたいというのである。まさしく「自分達の専攻」という気持ちのあらわれと思い、学生主体の専攻に向けて入学時オリエンテーションは、以後、学生の自主活動となった。

K学生は今春卒業した。昨年春の春休み、その時は逃げ出したいほど苦しかったが、1年の時に逃げていた自分の方がもっと惨めで苦しかったと振り返る。そんな姉の変化と成長を目のあたりに見てきた妹が、今春第一希望の本専攻に合格した。

さらに卒業式では、在學生を代表して、本専攻の1年生が送辞を述べた。その中の次の一節がひとときわ耳に残った。

「私が在籍しております生活科学科生活科学専攻では、入学して間もないころ、先輩方が私たちのために模擬授業形式のオリエンテーションを企画してくださいました。その授業を通して短大での講義やテストのあり方、学校行事の内容など、不安に思っていたことを、とてもわかりやすく説明してくださいました。この模擬授業を受けてからはクラスもまとまり、素晴らしい短大生活の幕開けとなりました。心を込めて指導してくださいました先輩の皆様方に、改めて感謝の言葉を申し上げます。」

奇しくも、この卒業式での学長式辞が「学問そのものが、学生の生きる力である。」という内容であった。

参考文献

1. 新しいほけん (3・4年用): 東京書籍株式会社: 斉藤歎能: 2002
2. 新しい保健 (5・6年用): 東京書籍株式会社: 斉藤歎能: 2002
3. 中学保健体育: 学習研究社: 赤田信一 他: 2002
4. 小学校学習指導要領解説 総則編: 文部省: 1999
5. 中学校学習指導要領解説 総則編: 文部省: 1999
6. 中学校学習指導要領解説 保健体育編: 文部省: 1999
7. 3・4年生から始める保健学習のプラン: 日本学校保健会
8. 学習指導案の書き方 鹿児島大学教育学部附属小学校: 下福力 他: 1992
9. 授業をどうする! 「カルフォルニア大学バークレー校の授業改善のためのアイデア集」: 東海大学出版会: 香鳥草之助: 1996
10. 大学-変革の時代: 東京大学出版会: 天野郁夫: 1997
11. 大学時代にしなければならない50のこと: ダイヤモンド社: 中谷彰宏: 1998
12. 大学革命: 藤原書店: 藤原良雄: 2001
13. 大学大衆化の構造: 玉川大学出版会: 市川昭夫: 1995
14. 健康教育の周辺: 東山書房: 三木信久 (編) : 2003

写真5. K学生によるオープンキャンパスでのミニ授業
「赤ちゃんはどこからくるの?」

